

咽頭がん

【集学的治療の実施状況】

耳鼻咽喉科：

上咽頭：（化学）放射線療法をおこないます。頸部リンパ節転移が残存した場合には、手術治療を行います。

中咽頭：早期がんに対しては経口的な手術や放射線治療となります。

進行がんに対しては拡大切除を中心に行っています。形成外科により、術後の欠損は再建しています。

手術を望まれない場合には、化学放射線療法を行っています。

下咽頭：早期がんに対しては（化学）放射線療法、進行がんに対しては手術療法を行っています。

進行がんに対しては、術後に化学放射線療法を追加する場合があります。

手術治療を望まない場合には、進行がんでは化学放射線療法を基本としています。

形成外科：

マイクロサージャリーの技術を応用した再建術を行っています。

放射線科：

画像診断と放射線治療を行う。

栄養サポートチーム（NST）：

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が一丸となって栄養面をサポートしています。具体的にはがんによって食事が摂れなくなった患者さんに適切な栄養について検討しています。週一回の回診とカンファレンスを行っています。

緩和ケアチーム：

緩和ケアチーム、麻酔科、心療内科、各診療科、NST チームが協力して集学的治療を行っています。

緩和ケアチーム(医師、認定看護師、認定薬剤師等)が中心になって、病状、患者の思いを把握して、多職種で連携して苦痛を緩和します。

《準じているガイドライン名》

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010 年版（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン 2013 年版（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック 2008 年版（日本緩和医療学会）